

イスラエルニュースレター

Israel News Letter



「シオンのために、わたしは黙っていない。エルサレムのために、黙りこまない。その義が朝日のように光を放ち、その救いが、たいまつのように燃えるまでは。」
【イザヤ 62:1】



2014年1月12日、新宿シャローム教会にて、稲福先生をはじめ、慎悟先生、また愛する神の家族の皆様の前で、イスラエル派遣前のご挨拶をさせて頂き、そして、祈りの宣教師としての按手を受けました。大好きな教会でこのように送り出されるの、本当に光栄です。お一人お一人の存在に心から感謝いたします。

これから、イスラエルのオリーブ山にある、Jerusalem House of Prayer for All Nations (JHOPFAN)、エルサレム万国祈りの家、という場所で祈りのスタッフとして働く予定です。JHOPFANは、Tom Hess(トム・ヘス)先生が立てあげた24時間祈りの家なのですが、彼はエルサレ



ムにダビデの幕屋を回復するというビジョンを受け、約26年前にこの祈りの家を立てあげました。彼は、7年ほど前にシャローム教会にも来て下さったことがあり、また

去年京都で開催された Empowered21 にも講師として呼ばれ、日本にいらっしやいました。彼は、日本、またアジアに特別な思いがあり、これからの時、これらの国々ともっと繋がりたい

と願っています。そこで、日本人のスタッフが必要だということになり、今回、私が派遣されることになりました。詳しい働きの内容は、私もまだ分からないので、また追々皆様にニュースレターなどでご報告させていただきたいと思います。



そして、先日、2年間のボランティアビザが下りました！！それも、実は、按手をされた日に交付！！祈ってくださった皆様、本当にありがとうございます。出国予定は2014年1月21日、一時帰国予定は2014年の12月です。

イスラエル祈りの宣教師として



自己紹介と共に、ここまで至った経緯と主とのやり取りを、ここで語らせて頂きます。

■ 宣教への思い

私はごく普通のクリスチャンホームで育った者で、はっきりと信仰告白したのは、小学5年生だったと思います。それは、あるインドに渡って殉教をした宣教師のお話を聞いて、感動した後、先生に導かれて、信仰告白をしました。それと同じ時期くらいに、私もあーやって神様に人生を捧げたいって思っていたのですが、私の宣教のイメージは、インドとか中国の奥地に行き、まだ福音の語られていないところにいたり、貧しい地域に行き、そこで主の愛を示したりというものでした。が、しかし、神様の計画は、私の思いを遥か超えたところにありました…

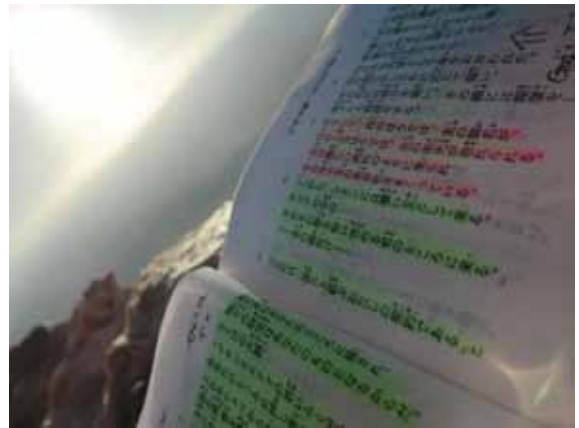
■ イスラエル?!?!

7月、初めてイスラエルに行き、聖書が今まで以上にリアルになる体験をして、またいつか、行きたい!と思いました。その旅から帰ってきた4日後に、慎悟先生からイスラエル宣告を受けました。それは、JHOPFANに日本人が必要だという連絡を慎悟先生が受け、すかさず、かよちゃんを派遣と思ったようで。私にとってはものすごく突然でした。

私は今までいろんな国で留学や研修の為、長期滞在したことがあります。さすがにイスラエルに派遣となった時、そんな私でもかなり戸惑いました。

先程書いたように、私の中で宣教とは小さな村などに行つて福音を宣べ伝えること。特に中国宣教は去年の初めあたり、真剣に考えていて、稲福先生と台湾の神学校に進学しようかと相談までしていました。なぜなら、Back to Jerusalem というフレーズを耳にしたことあるかと思いますが、これは、福音がエルサレムから出て、世界中に渡り、そして、終わりの時代には、その福音がエルサレムに戻るという計画を指していて、私はその一環を担おうと思ひ、絶対に通らなければならない中国に注目したのです。けど、この時代、神様はご自分の計画を成し遂げようと、今までにもないほど早いスピードで動いておられます。そこで神様は、中国を飛び越して私をイスラエルに遣わすと。

「これは、神様の声?それとも、私はただ、今、教会とか、慎悟先生の流れにのっているだけ?」と思ひ、本当にイスラエルなら、しるしを下さいと求めました。そして、まず、神様のみことばがストレートに書かれてある聖書から語られると思ひ、聖書を読みました。が、聖書のどこを読んでも絶対イスラエルは出てくるし、イスラエルに行くなんていう箇所なんて見つからず。逆に、イスラエルを祝福しなさい、イスラエルに上りなさいっていうみことばばかり書かれています。こりゃあ、当てにならないと思ひ、神様に祈り続けました。もっとはっきりさせてくださいと。



■ プレゼント

そんな中、8月の教会のユースキャンプで、姉妹があるイメージを私に語って下さいました。

イエス様がプレゼントを私に渡そうとしている。けど、私はそれを受け取るのを躊躇していると。それも、姉妹が見たのは、生々しいイエス様の腕の血管。それが物語っていること…それは命をかけたプレゼントだと。イエス様はそれを受け取ってほしいと切に願っていると。

私はこの預言聞きながら、イエス様にこのプレゼントの中身はなんですか?と質問しました。そしたら、こんな答えが返ってきました。「ユダヤ人の救いだ」と…

そのプレゼントが、すごく重たいからです。

それも実はこのイメージを受ける前にも、個人的にイエス様は「プレゼントをあげるから、手を出しな」と、SHOP の部屋に一人でいる時に言われ、手を出したら金粉が！！ではなく、釘で刺し通されたイエス様の手でした。

そんなことが、立て続けにあったので、このプレゼントが重たいから受け取りたくないって思っちゃうんです。ただ、イエ



ス様は本当に優しい姿でアプローチしてくださいました。このプレゼントを受け取りなさいと強いることはなく、しかし、その情熱と愛に燃える目は、このように語っていました。「これがわたしの願いだ。共に共有しないか？」と…

私はこの愛のアプローチに降参し、このように答えました。「愛する主よ、このプレゼントを受け取ります。しかし、主よ、私に何をしなさいと言うのでしょうか？私はヘブライ語できない、ユダヤ人の文化、祭りについて知らない、この人生でユダヤ人と関わったことない、私は、知らなさすぎ！！それも、ユダヤ人に対して、そこまでまだ関心がないし、あなたが抱いているように彼らを抱けてないし。そんなんで、私に何ができるのでしょうか??？」と。

■ 父の国、日本からイスラエルへ

「娘よ。聞け。心して、耳を傾けよ。あなたの民と、あなたの父の家を忘れよ。

そうすれば王は、あなたの美を慕おう。彼はあなたの夫であるから、彼の前にひれ伏せ。」(詩編 45: 10, 11)

キャンプから帰ってきて間もなく、この御言葉が心に飛び込んできました。そして、これが、私がイスラエルに行くということを決定づけ、ゆるがないものとなりました。

私にとって、私の民、父の家とは日本です。けど、主はそれを忘れよと。忘れよというよりも、手放しなさいということだと私は思います。主は私がイスラエルに行って何かをして欲しいという以前に、自分の民、父の家を置き、私の王であるイエス様を愛し、恋い慕うがあまりに、彼が呼ばれているところに行き、彼に従うことを何よりも願っていることを教えてくださいました。また、私がそのことばに従う時、私の美をも慕ってくださいると。

実際、私よりもイスラエルに遣わされるにふさわしい方、沢山いらっしゃいます。イスラエルを抱き、その為に涙をもって

ずっと祈り続けて来た方。また、聖書と主の啓示を通して、イスラエルを学び、愛している方。そんな方こそ、イスラエルに遣わされるべきだと思います。私は、神学校も出ていない、本当にイスラエルについて、無知なものです。9月に1ヶ月ほどイスラエルに行ってきたのですが、そこに行く数日前に、ヨムキプール、大贖罪の日、ユダヤ人の新年が、始まるってことを知ったくらいですよ。そんな私がイスラエルに行って何になるんだって思いますよ。

実際、何もできないと思います。ユダヤ人に伝道するなんて、できないでしょう。ただ、主が私に今して欲しいこと。それは、イエス様を慕い、イエス様と共に祈り、その御名を高く掲げる、それだけです。

■ 日本とイスラエルの架け橋 ～シオンへの大路として

この終わりの時代、イエス様が今にもこの地に栄光の王として帰ってこられようとしている時、主は実際にその道を整えようと働かれておられます。私がイスラエルにいて何かできることはないのですが、賛美と祈りを持って、そのシオンへの大路を備える者として、またイザヤ 40 章の声ともなっていけたらと思っています。日本から今年、義の太陽であるイエス様が掲げられ、その栄光と輝きが全世界まで及ぶものとなっていくことを信じ期待し祈っていきたいと思います。



- ☆ 一步一步、主の声をよく聞き、従っていくことができるように。いつもへりくだり、高ぶることがないように。
- ☆ 主が抱いているイスラエルへの思いをもっと知り、それが、私、そして皆さんの思いとなっていくように。主と心1つになり、イスラエル、エルサレムの為に絶えず祈ることができるように。
- ☆ イエス様が帰ってこられる、その道備えをしていくことができるように。



イスラエルサポート

Israel Support

イスラエルへの宣教はSHOPからの派遣となります。イスラエルで生活し、活動を継続していくためには、経済的なサポートが必要となります。つきましては、献金という形で宣教をサポートしていただけたらと思います。献金方法は下記のものとなります。

SHOPに直接献金していただく

封筒に「イスラエル」または私の名前などを封筒に書いて頂き献金箱に入れていただく

下記の口座にお振込みいただく

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード 9900）
 店名：0一八（読み ゼロイチハチ）
 店番：018
 預金種目：普通預金
 口座番号：2225930
 口座名義：SHOP

※このイスラエルニュースレターはSHOPのホームページに継続的に掲載されます。

林 佳世 (Kayo Hayashi) Email: js.kayo@gmail.com / Skype: [js.kayo](https://www.skype.com/ja/contacts/js.kayo)



Shinjuku Shalom Church

新宿シャローム教会

<http://shop24-365.org>

<http://shinjuku-shalom.com>